

## 1 外国人幼児等が在籍する学級の幼児と保育者の現状

研修動画から、外国人幼児等を受け入れている学級の幼児と保育者によく見られる戸惑いや育ちに関する現状について学びます。

協議では、外国人幼児等の様子を問いかけ、例えば「言葉は発しないけれど、分かっているみたい」など様々な幼児の思いに関する発言があったら、「どいう姿から、分かっていると感じたの？」「先生方の中で、〇〇と気付いたきっかけはある？」など、保育者の気付きを引き出す問いかけをしましょう。

また、グラフの質問項目やその数値を見て気付いたことを話し合い、教員が日頃感じている（実施している）ことや、悩みや不安を感じていることを発言しやすいように進めます。それによって、自分では思いつかなかった工夫や自分の学級の実態や育ちの可能性に気付くことにつながります。

## 2 互いを受け止め合う学級集団の育ち

研修動画から、外国人幼児等も他の学級の幼児も、それぞれが自分を表現し、多様な関わりを通して育っていく学級集団について学びます。

協議では、その学びを共感的に理解するために、テキストのP8～18に掲載している5つの事例から、自園の実態に照らして、取り上げたい事例を選び、話し合ってみましょう。視点として、関わりの中で生まれる仲間への親しみ、興味・関心の深まり、自分の価値観と相手の価値観の違いなど、幼児が漠然と感じている姿（漠然とした気付き）などが考えられます。「この漠然とした気付きを繰り返すことで、感じていることがはっきりしていくのかも」などという幼児の漠然とした気付きに関する参加者の発言をうまく取り上げて、意識化するようにリードするとよいと思います。保育者には、幼児の漠然とした気付きの芽生えに気付く力が求められていることにも言及できるとよいと思います。

## 3 幼児が言葉を習得する過程と保育者の援助の在り方

研修動画から、外国人幼児等が、周囲の様子から段々と言葉の意味を感じ取り日本語を習得していく過程と保育者の援助について学びます。

協議では、覚え始めた日本語の習得をどのように支えていくかを考えます。パワーポイントのP15に示している保育者の援助の在り方①～⑦について、これまでの実践やその結果気付いたこと、今後やってみたいことなどについて報告し合ってください。参加者が質問したり経験を伝え合ったりする中で、援助の在り方について理解を深め、保育のヒントにするとよいと思います。

## 4 多文化共生の学級経営

研修動画から、自園の保育の実際について振り返り、多文化共生の学級経営・園運営について学びます。

協議では、多文化共生の視点から幼児や学級集団の育ちを捉え、園全体で学級経営をどのように支えるかについて考えます。パワーポイントのP18の自園の多文化共生に向かう状況を捉えるための視点①～④の内容や、P19に示す多文化共生の学級経営を目指す基本的な考え方の4つの項目に照らして、園全体の多文化共生の風土がどの程度生まれているかについて共有することによって、今後の方向性を見通すことができます。

最後に研修のまとめとして、多面的に考える力を養うための事例を示しています。ほほえましい事例のように見えますが、その中で子供たちが何を学んでいるか、よさの面だけでなく、課題が生まれる可能性があることに保育者が気付き、意識できるように対話や協議を進めていただきたいと思います。

## 具体的な協議の進め方の例

園内研修実施日時：○月○日（○）○：○～○：○

参加者：\_\_\_\_\_名

◎園内研修の時間や、園で優先して取り上げたい事柄等、各園の実情に合わせて、進め方を工夫してください。

◎動画を全部見てから協議をしていただいても結構ですし、セクションごとに止めて参加者にワークシートに記入してもらい、協議の時間をもってから次のセクションに進めても良いでしょう。

◎参加者の発言内容に即して、気付きを引き出すように問いかけてください。その際、動画で学んだことと関連付けるような言葉を使うと、参加者の気付きが深まり、保育に反映しやすくなると思います。下のA欄に問いかけの例を記述します。あくまでも参考例としてご活用ください。

A ファシリテーションのためのヒント（問いかけの例）	B 話し合った内容の概要（ファシリテーターの感想等も含む）
<b>1 外国人幼児等が在籍する学級の幼児と保育者の現状では、</b>	
<p><b>Q1</b> 自園の外国人幼児等は、どのようなことに困っていますか？</p> <p><b>Q3</b> 貴方の園では、どのような姿が見られますか？</p>	<p><b>Q2</b> P8の「学級の幼児の育ち」のグラフから、どのようなことに気づきましたか？ (関連 テキスト P4～5)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人幼児等の入園当初、保育者が心配したこと（「気になった姿」）はどのようなことでしたか？</li> <li>・ その理由は、どのようなこと？</li> <li>・ 学級の他の幼児たちは、どのような様子でしたか？</li> <li>・ P8のグラフを見て、どう感じた？ なぜ？</li> <li>・ 同じような体験をしたことがあったら紹介して</li> <li>・ 現在の幼児同士の関わりはどんな感じ？</li> <li>・ 先生自身が今、悩んでいることや迷っていることは何？ など</li> </ul>	
<b>2 互いを受け止め合う学級集団の育ちでは、</b>	
<p><b>Q4</b> 事例○について、感じたこと気付いたことはどのようなことですか？</p>	<p>(関連 テキスト P6～18)</p>
<p>○テキストに各事例の「ファシリテーションのポイント」を掲載していますので、話し合いの参考にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例の中で、幼児が異文化について感じたり気付いたりしていること（幼児が受け止め合っていること、学んでいること）はどのようなことがあると思う？</li> <li>・ これと似たような経験がある人は、いる？</li> <li>・ そのとき、先生は何を大切にしたいと思った？ など</li> </ul>	

<b>3 幼児が言葉を習得する過程と保育者の援助の在り方では、</b> <span style="float: right;">(関連 テキスト P19～20)</span>	
<p>○パワーポイントP15に示す援助の在り方を参考に、自身の保育を振り返りながら話してもらおうと思います。話をする中で、外国人幼児等の育ちを確かめながら関わり育むことの大切さに関心が向くように話を進めるとよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児一人一人の育ちに応じた保育者の援助の在り方①～⑦の中で、自分が実践したことはありますか？</li> <li>・ 具体的には、どんな場面でどんな言葉にしたの？</li> <li>・ 他の先生の姿を見て、自分も真似たいと思ったことは？</li> <li>・ 保育の中に取り入れてみて、言葉への興味が広がったと参考になることがあったら紹介して など</li> </ul>	
<b>4 多文化共生の学級経営では、</b> <span style="float: right;">(関連 テキスト P21)</span>	
<p>○これまでの3つの章で学んだことを総合的に捉えて、「自園の多文化共生に向かう状況」や「多文化共生の学級経営を目指して」について皆で確認し、園内研修のまとめとして、今後目指す方向を共有するとよいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①～④の中で、これは該当すると思うことはどんなことがありますか？</li> <li>・ どうしてそう思ったの？</li> <li>・ これは、もっともう少し頑張りたいと思うことは？</li> <li>・ 自分だったらこうしたいと思うことは？</li> </ul>	
<b>研修の振り返り 一課題が生まれる可能性では、</b> <span style="float: right;">Q5 F児と周囲の幼児たちは、どのような思いをもっているか考えてみましょう。</span>	
<b>Q6</b> なぜ、幼稚園は「複雑な思い」をもったのか考えてみましょう。 <span style="float: right;">(関連 テキスト P22)</span>	
<p>○スライドP20に提示している事例を読んで、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生まれる可能性がある課題とは、どのようなことが考えられそうですか？</li> <li>・ なぜ、幼稚園は「複雑な思い」をもったと思いますか？</li> </ul> <p>○保育者一人一人が考えることも有効ですので、参加者に記述してもらい、後日に皆で共有してもよいと思います。</p>	